

最新売れ筋BEST本

☆印は初登場!!

2004.2.1~2.29

TTCネットワーク月間データ

(半巻を除く小社全書籍の売れ数)

書名	著者名	本体	配本日	前月順
1 自分仕事をつくる	西村 佳哲	1900円	03.9.30	1
☆ 2 ヒーリング・キャット	葉 祥明	1500円	04.1.30	New
3 がんから始まる	岸本 葉子	1600円	03.10.17	2
↑ 4 ぼくたちの七〇年代	高平 哲郎	1700円	04.1.23	11
☆ 5 いつものように幕が開き	小沢 昭一	2400円	04.1.30	New
☆ 6 ブック・イン・ピンク	山崎 まどか	1600円	04.1.29	New
↑ 7 骨董屋の非賣品	勝見 充男	1900円	04.1.20	17
↑ 8 駆け出しネット古書店日記	野崎 正幸	1800円	04.1.23	19
↑ 9 普及版 数の悪魔	エンツェンスベルガー	1600円	00.8.23	12
10 椅子と日本人のからだ	矢田部 英正	1800円	03.12.26	9
☆ 11 緋靴下殺人事件	バークリー	2200円	04.2.25	New
☆ 12 人類最高の発明アルファベット	ジョン・マン	2400円	04.1.29	New
13 J.C.オカザワの浅草を食べる	J.C.オカザワ	1700円	03.12.11	4
14 チャスとリサ、台所でパンダに会う	レボウィッツ	1200円	03.12.12	14
15 ヨットクラブ	イーレイ	2600円	03.10.24	5
16 考える練習をしよう	バーンズ	1650円	85.3月	14
↑ 17 ある人生の門出	ブルックナー	2100円	04.1.9	20
18 慕いつづけたひとの名は	小沢 昭一	2400円	03.12.26	3
19 泣いてくれるなほろほろ鳥よ	小沢 昭一	2400円	03.10.31	8
20 メキシコ人はなぜハゲないし、死なないのか	明川 哲也	2900円	03.9.30	6

売水つづけて
もはやロングセラー!

がんから
始まる

岸本葉子 著 本体1600円
ISBN4-7949-6586-9

昨秋発売より版を重ね、各紙誌絶賛が
つづいている本書。さらに AERA、パンパキン、
がんサポート、コスモポリタン、日本経済新聞、
朝日新聞be などでも紹介中です!

☐「岸本作品のベスト1」(会社員・42才)
「一人で受けとめ、一人で立ち向かい、情けなかり
とりましたりしないところがとても良い」(男性・
55才) etc. 応援と絶賛のお礼がきも続々!!

3月下旬 岸本さん最新エッセイ刊行!

品文社 3~4月

3月 岸本葉子『パソコンでe患者』
小沢昭一『なぜか今宵もあお更けていく』(完結!)
ラニア馬『大統領ジョージアンの子どもたち』
室井忠道・岸川真『おかね教育』
芥沢俊介『死のありか』

4月 バクスター『ある愛書狂の告白』
辻垣正彦『やっぱり昔ながらの木の家がいい』
村松伸『象を飼う 中古住宅のススメ』(仮)
バーデン『死を呼ぶペレシュロン』(品文社ミステリ)
箭内道彦『風とロック 箭内道彦と21世紀の広告』
石田千『月と菓子パン』
高橋哲哉・斎藤貴男『平和と平等をあきらめない』

紹介続々!旬の本

重版
出来



1/23 画本

ぼくたちの
七〇年代

高平哲郎 著 本体1700円
ISBN4-7949-6602-4

「楽しかくて楽しい回想録
である。七〇年代は知ら
ないが関心はあるとい
う人にとっても時代の雰囲気を知るには絶好の
読み物である」—— 2/29(日) 朝日新聞より

週刊文春、週刊新潮、朝日新聞等紹介!!
☆『ぼくたちの七〇年代』並売おすすめリスト あります! ☆

2/29(日)
朝日新聞
短評および
NHKテレビ
「課外授業
ようこそ先輩」
で反響大!

淋しい
のはお前だけじゃな

村野浩一 著 オキモユキ 絵
本体1400円 4-7949-6599-0

人気歌人の創作裏話エッセイが
恋愛体験 告白になってしまった...!
短歌もイラストも秀逸なオススメ本!!



絶食いシマダの

不定期連載 No. 96

この店にイけ!

蕎麦屋では客席係を端番(はなばん)と呼ぶことを「専科」四代目、藤村和夫の本で知った。一番ハナ(先)にお客と接するからで「花番」とも呼ばれたらしい。「文字通り店の花です」という。その店の花番さんは、心もキレイ。注文した品がなかなか来ない。間違えて他の客に行ってしまう。「違うよ!」といわれて おろおろしている。「お茶くおせい!」といえは「なかなか来ない。来たと思ったら、すぐに「お茶はいかがでですか?」なんてやってくる。要するに要領が悪いだけなのだが、文句が言えない。なぜなら一生懸命だから。目が死んでいてかつ、要領が悪けりゃ最悪だが、その花番は

馬も鳥もがまんは...!! 目が生き生きしている。身体だって良く動いている。し、非の打ち所がないくらいだ。まるで、高知競馬の「ハルウララ」である。一生懸命走るのだが、勝てない。そしてその姿に感嘆する。重松清『走って、負けて、愛されて』じゃないけど「店に出て、間違えて、愛されて」である。取次店の大阪屋(東京本部)さんや太洋社さんがある、文京区水道2丁目にあるその店はある。ごまだれせいの 700円を特におすすめする。胡麻ダレの上品な旨味と、細く切られたそばの香りがバランス良く美味である。神田・まつやのそばよりも上かもしれない。また、ダンタンセいの 750円も常時いただける。普通そばの100倍ほどのルンが 含まれているそばは、ちぢれが強く色も濃い。栄養良く如何にもである。温かいそばでは 鳥南はん 800円

を、この時期だからあえておすすめしたい。牛がだめ、鳥がだめと世の中冷えびえする中で、鳥は71%の加熱で菌が死滅するという、鳥のためにもひと肌脱ぎたい! 店名は「やぶ(宗)」。新築になった石切橋を、新宿区から文京区へ渡り、花屋の先を左、最初の信号を右、その先左。黒塗りの板塀の前に「ちいさなやぶ」がしつらえてある。店内は4人がけテーブルが10脚に、小パーティならOKの8人がけの大テーブル。二の大きさが「花番」をてこずらせるのか!? しかし、このごろ「やぶ(宗)のハルウララちゃん」は、要領をわきまえてしまった、ように見える。高知の「ハルウララ」も武豊が騎乗する3月22日には105連敗を脱して勝ってしまうかもしれない。【営業部・島田孝久】

